

2017年度 外部評価委員会報告

【第1回外部評価委員会】

- 日 時 2017年6月28日(水) 午後1時30分
- 場 所 本校 図書室
- 出席者 外部評価委員6名、教職員3名
- 実施内容
 - ① 委嘱状交付
 - ② 外部評価委員会の趣旨説明
 - ③ 学校運営方針の説明
 - ④ 授業参観(高校現代文明論公開授業)

【第2回外部評価委員会】

- 日 時 2017年11月17日(金) 午後1時10分
- 場 所 本校 第一会議室
- 出席者 外部評価委員6名、教職員4名
- 実施内容
 - ① 建学祭(学園祭)の報告
 - ② 授業参観(英語科研究授業)

【第3回外部評価委員会】

- 日 時 2018年3月16日(金) 午後4時
- 場 所 本校 第一会議室
- 出席者 外部評価委員7名、教職員4名
- 協議内容
 - ① 自己評価の評価項目について
 - 生徒指導の中で、先生のことば使いがひどいという話を聞いた。生徒を指導する先生に対する評価もあっていいのではないか。
 - 中学校では、アンケートの中に自由記入欄を設けている。また、体罰調査もしている。それにより教員も注意する。ただ、教員を萎縮させてはいけない。
 - 卒業生からのアンケートも必要ではないか。

② 自己評価の結果と今後の改善策について

【学校運営全般】

- 生徒に対するアンケートの結果を見ると、「学校は学校改革に取り組んでいると思いますか」との設問に対する評価が比較的低いように見受けられる。学校改革に取り組んでいるというが生徒への浸透が十分でないのではないか。生徒へのアピールが今後必要になるのではないか。

【「生徒が主役～あなたの生きる力を育てます」のスローガンを実現する】

- 中学校にも不登校の生徒が多数いる。また、高校の授業の速度が中学校より早く、部活動の厳しさも違う、異なる地域から生徒が集まることによるトラブルもあるなど、最初のうちは高校に馴染めないから不安に覚える生徒がいるため、1年生の相談件数が多いのではないか。生徒が悩みをスクールカウンセラーや養護教諭など、教員以外の人に話せる環境が必要である。
- 生徒同士のいじめがあったかどうか、あったとしたらどのように対応したかの報告も必要ではないか。また、教員によるアカデミックハラスメントについても同様である。報告は文書でなく、口頭でもよい。
- いじめは一般社会でもある。親しいから言ったということもあるかも知れないが、親しき仲にも礼儀あり。
- スマホ（SNS）のトラブル防止についても、生徒に啓蒙する。親や先生が目が届かないため注意が必要である。

【基礎学力を定着させる】

- 家庭学習の習慣に対する評価が全般的に低い。今後、保護者と連携し家庭学習の習慣化を図っていく必要がある。
- 家庭学習については、どうしても学校に頼ってしまいがちであるが、親の責任もある。
- 家庭学習は高校生になったら、本人の自覚による。親が強制的に勉強しろという反発もある。
- 部活動で朝早く登校し、夜になって帰宅するとなかなか家庭での学習は難しいが、大学に進学すると基礎学力が必要となるので、学校で指導してもらいたい。

【新しい教育活動に取り組む】

- 図書室が4階のため、少し行きづらいのではないか。本を読む習慣のある生徒は

行くが、そうでない生徒をいかに図書室に足を運ばせるか工夫が必要である。

- 英語教育で、GTECを取り入れているとのことであるが、企業はまだまだTOEICや英検を採用条件としているところもあるのでどうかと思う。

【進路指導を実現させ、付属推薦の達成値を実現させる】

- 進路指導で、ハワイ東海インターナショナルカレッジの情報が少ないように思う。

【保護者や関係者との協力関係を推進する】

- 学校のホームページに対する生徒の評価が低い。新しい情報を積極的に発信して欲しい。

③ 授業評価

【授業参観アンケート】

アンケート内容	5段階換算 評価
生徒は積極的に授業に参加していたと思う	3.6
教員の指導方法に工夫や熱意が感じられたと思う	4.1
教員の板書は見やすく整理されていたと思う	4.0
本校の清掃状況など環境整備は十分だと思う	4.3
本校では頭髪・服装などの指導が十分になされていると思う	4.5
本校の生徒は来校者に対して挨拶ができていると思う	3.9

【所感】

- 基本的に先生方の熱意が感じられた。生徒も一生懸命やっているように思える。
- 教員の板書時間が長い。板書の間、多少の会話（コミュニケーション）があっても良いのではないか。
- 教員の熱意と生徒の気持ちにズレを感じる。
- 授業中、寝ている生徒を注意する教員としない教員がいるのに違和感を覚える。
- 人気のある教員の授業は、皆熱心に聞いている。
- 前回の授業参観と比較すると、授業に集中している生徒が増えたように感じた。
- 「スマホ」については、生徒たちが最も興味関心があるテーマであり、1年生のこの時期（6月）に取り上げる計画も良いと感じた。
- 一人一人が深く考えたとともに仲間のいろいろな考え方を聞くことにより、さらに広く深く考えることができています。
- 1年5組では、漢字一字に表すことや、1枚のカードに宣言を書き発表させるなど指導方法が工夫され、より深く考えることができたのではないかと思います。

- 発表者の声や顔・体の向き、資料の指示などについても担任が評価することで向上していく。
- 発表のための練習や注意点など、事前の指導も大切になる。
- (現代文明論は) 各学級担任の先生方の工夫が見られ、とても良かった。担任の先生方にとっては、大きな負担となっていると思うが、東海の特徴でもあるので今後とも皆で研究を進めていってほしい。
- 空き時間の先生方が授業参観に来て教師同士が学びあう姿勢が見られてとても良かった。同じ教科の先生に指導助言をしてもらう機会があることは大切だ。今回の研究授業に向けて教科会の中で事前研究会、指導案の検討が行われていたり、事後の研究会が行われるなど相互に啓発する話し合い、学びあいが行われていることが大切である。
- 指導案にある「全体の中で単語を発音したり、発言するのに課題がある。」また、「学力差が大きく、個別指導を行わないと内容についてこられない生徒もいる。」と分析している中で、これまで、その課題に対してどのような手立てで指導し改善しようとしたのが重要である。そのことを、生徒の個人的能力・努力の問題だとして教師が取り組まなければ、自然に改善することなく過ぎていく。
- 全ての授業でそうだが、言語活動において「間違えながら学び、それを許容できる人間関係」が大切だ。特に英語などにおいて、自分の考えや意見を述べるときに躊躇してしまうことが多く見られる。人の過ちを嘲笑したりするような雰囲気がある中で、間違えても発言しようとする生徒はいない。ましてや学力に差がある生徒は質問などもできないでいるだろう。
- 授業全体を見て感じたのは、プリントのイラストの並び替えと内容の質問に関する回答の選択の答え合わせに時間がかかったなと感じた。答え合わせが大事ではなく、生徒に考えさせることが大事で、始めにビデオで聞いて、すぐにプリントを一度やらせ、それから先生が読んで、もう一度プリントをやらせて最後に文章のプリントを配付して新出単語を確認しながら文章を読ませて、プリントをやらせる。そこまで個人で考えさせた後、横並びの3人のグループワークをし情報交換をさせる。このことでできなかった生徒を授業に参加させる。それから、順番にグループを指名して答えさせる。また、内容に関する質問のプリントが日本語で書いてあるが、できれば英語で質問し、英語の選択肢がある方が良いのではな

いか。これも最初は個人で考えさせ、その次に3人のグループで話し合う。こう
いうことで自分で考えたり、主体的に学習に取り組む態度や自分の考えを表現し
たり、お互いに意見を交流して思考を深めていくことができ学習意欲の喚起に繋
がる。

- 授業の時間配分で、指名しての答え合わせに時間がかかり、新出単語の確認が計
画どおり十分に行われなかったが、新出単語は全員で発言させたい。また、プリ
ントの一部は宿題にすれば良かった。家庭学習に課題がある中で、授業の復習・
予習をさせることで家庭学習の定着を図るのも方法だと考える。

以 上